

山口県立下関北高等学校
令和2年度第2回学校運営協議会 会議録

1 日 時 令和2年11月24日(木) 午後5時30分から午後7時まで

2 場 所 山口県立下関北高等学校 会議室

3 参加者 17名
学校運営協議会委員 11名(校長を除く)
学校関係者 6名(校長、教頭、事務長、教諭3名)

4 内 容

(1) 校長挨拶

- 第1回会議では、今年度の学校運営方針、学校評価書、地域と連携・協働した取組などについて報告し、承認いただくとともに、人づくり・地域づくりの取組や小中高連携の取組について御協議いただいた。
- そこでいただいた御意見をもとに、生徒がしたいと思っていること、考えていることに耳を傾け、また、地域の方がどのように考えておられるかを確認しながら、コロナ禍においても可能なことに取り組んでいるところである。
- こうした中、角島大橋は11月3日に開通20周年を迎え、本校は下関市役所豊北総合支所や地元の花弁栽培農家の司ガーデンと連携し、ドライブインシアターが実施される期間、角島しおかぜの里において、ハロウィンかぼちゃのランタンの展示やライトアップなどを実施した。
- 2018地方創生政策アイデアコンテストで、本校の生徒が考案した「ハロウィンかぼちゃで交流振興・生産振興～角島大橋ハロかぼランタンライトアップ大作戦～」は、角島大橋の欄干にかぼちゃのランタンを取り付けるというものだったが、地域の皆さんの協力もあり、生徒のアイデアを生かす形でハロウィンかぼちゃのライトアップが実現でき、生徒はもとより、学校関係者も大変うれしく思っている。来年も地域を盛り上げるこうした取組を続けていきたいと考えている。
- 本日は今年度前期の取組や学校評価の中間期評価について、報告させていただくとともに、中間評価の報告をもとに、「本校生徒の学力向上や進路指導の充実に向けて」意見交換させていただきたい。

(2) 会長挨拶

- 運動会や文化祭、オープンスクールなど、例年であれば学校に足を運ぶような機会がなくなり、学校の様子がわかりにくいかもしれないが、この後の報告を聞いて、しっかり協議していただきたい。

(3) 報告・協議

① 令和2年度前期の取組について

ア 今年度の地域と連携・協働した活動について（資料1により説明:校長）

【委員からの意見】

- 角島開通20周年記念事業のドライブインシアターでは、ハロカぼランタンを作るときに生徒に非常に協力してもらった。交流振興・産業振興のイベントとして、来年度以降は別の形になるかもしれないが、続けていきたいと考えている。
- 観光パンフレットについては、清水さんから提案があり、観光協会として協力させてもらった。現在、道の駅やホテル西長門リゾートなどに置いている。高校生の手作りによるこうしたパンフレットは珍しく、共感を呼ぶだろう。

10月31日にサッカー部の生徒が、ホテル西長門リゾートのビーチで開催されたビーチサッカーに参加してくれた。新しいものに取り組む若い人たちの発想も取り入れていきたい。

イ ハロカぼプロジェクトについて

（資料2及び生徒によるプレゼンテーション〔録画〕により説明）

- 豊北小でのランタン作りは非常に盛り上がった。今後は、学校の教育活動の一環としてできるとよいと考えている。
- ハロカぼプロジェクトの取組は、学校から地域への広がりを見せている。今後は、このハロカぼの取組が学校の目玉になっていくとよい。

② 令和2年度の中間評価について

第1回学校運営協議会で承認いただいた「学校運営方針、学校評価書」に基づき作成した資料3「学校運営に関する点検・評価資料」について、各分掌の課長から説明。

③ 山口県の「地域連携教育」リーフレットについて

資料4により教頭が説明

④ 協議「本校生徒の学力向上、進路指導の充実に向けて」

学校運営協議会委員が協議

【校長より論点の確認について】

- 今年度は、時間外勤務時間を月45時間以内とするため、工夫しながら効率的に業務を遂行している。本校の教員は早朝、昼休み、放課後など、献身的によく頑張っているが、進路実現という形でしっかりと結果を出していくことが求められている。
- 進学するにしても就職するにしても、学力は付けていくべきだと考える。学力向上には3つの柱があり、それらは授業時間の確保、学習時間の確保、そして学びの質の確保である。授業時間については、広範囲から生徒が通学してくるため今以上の確保が難しく、学びの質の確保については、授業研究などを通してアクティブ・ラーニング等を進めている

ところである。家庭での学習時間の確保については、資料で示しているように、まだ十分ではない。このため、次の3点について委員の皆さんに協議いただきたい。

- ①家庭学習の時間を確保するための方法について
- ②ICTを活用した家庭学習の工夫について
- ③小・中学校におけるICTを活用した指導の工夫について

【委員からの意見】

- 本校も生徒の通学の関係で学校生活の時間が決まっており、補習の時間確保が難しい。家庭学習については、子どもによって差が大きい。

授業改善の上で教員に繰り返し伝えていることは、授業がわかりやすいことは大切だが、「わかる」がゆえに生徒が「考える」ことをやめてしまうことなく、「できる」や「活用する」につなげていこうということである。ここは教員によく理解してほしいと思っている。

私の中学校区では、子育て支援資料を作成し、幼稚園から15歳までの子どものいる全ての家庭に配付している。発達段階や年代別に、どんな勉強をしているのか、どんなことを学んでほしいのかなど、整理してまとめたものである。学校だけではなく、家庭も連携して皆でやる雰囲気づくりが大切である。

ICTについては、教員の知識・技能が追いついていない状況である。日頃から何のためにICT機器を使うのか、その目的を明確にしておく必要がある。時間の制約がある中で教材の提示に使うとか、タブレットによる個別学習の支援とかが考えられる。双方向の学習をタブレットでやるのはかなりハードルが高い。今後、小・中・高がICTの活用についてのノウハウを共有し、連携して意識を広げていけるとよい。

- ICTについては、教員がテクニックを身に付けるために研修が必要である。各教科の特性により、マット運動で動画を取って本人に見せるとか、自分の意見をiPadに書いて大きい電子黒板に集めてクラス全体で共有するとか、使い方は各教科で手探りの状態である。

私の学校では、グループ活動をルーティン化している。全員が受ける道徳の授業で、グループは4人（司会、記録、タイムキーパー、発表者）とし、役割を交代しながら、小さなホワイトボードにグループの意見を書いて黒板に貼るという活動をしている。以前までは授業によってグループ活動の形がバラバラで、5人とか6人のグループ活動もあったが、道徳の授業を起点にこのルーティンを広げていくことを提案している。

家庭学習については、自主学習ノートを活用している。何をマスターすべきか教員が具体的に示す中で、勉強する時間帯と場所を固定化していく必要があると考えている。メディアやスマホに勉強の邪魔をされないよう、保護者にもこの固定化をお願いしていく。

- ICTについては、現在、校内で工事中であり、これが終わればタブレットや電子黒板の活用を開始する予定である。これまでICT機器の活用は学校行事等が中心であり、授業ではあまり活用できていない。小学校の方が進んでいるのではないかと思う。

家庭学習については、1・2年生は自主学習ノート、2年の後半から3年にかけては、決まった教材を活用している。課題について教科間でバランスをとるという状況ではない。部活動の休養日を設定しているので、そうした日に家庭学習の時間を確保できるようにはなっている。ノーゲーム・テレビデーは、小学校に合わせて実施しており、小学校時代から経験している現在の中学校1年生は意識が高い。このように、家庭での時間の使い方についても考えていかないと、課題の提示だけではうまくいかないとと思う。

- 本校では、怪我で登校できない子どもがおり、グーグルのズームを活用して授業を配信し、家庭で見せた。先日の学習発表会の様子もズームで配信したが、40程度アクセスがあったので、その程度の人数であれば、現在の通信環境でも同時に対応できると考えられる。高校ではJRの運休などに伴い休校となる場合があるが、登校できる生徒は授業を受け、登校できない生徒の家庭に授業を配信できれば、休校とする必要がなくなるだろう。

現在、iPadが教員1人に1台ある。子どものノートを撮影して大画面に映してクラス全体に提示したり、デジタル教科書を活用したりしている。

自主学習ノートについては、「学習だより」でいいノートを取り上げたり、使用済みのノートを学級でためて見える化したり、動機づけや意識づけを工夫している。

ノーメディアデーは中学校の試験期間に合わせて、テレビやスマホを見ないようにしている。

- ICT機器を活用して、学校の授業を家庭で見ることができるようになるとよい。復習のために今日の授業をもう一度見るという使い方も考えられる。

勉強時間については、長ければよいというものではないと考える。勉強する際にスマホが机の上にあっては、検索には便利かもしれないが、ラインの着信などもあり、勉強の効率が落ちる。このため、時間を決めてスマホを使用しないなど、保護者として子どもと約束することはできると思う。

下関北高校になって、就職する生徒が増えてきたと聞いているが、7月頃に就職希望者に面接指導、その後、進学指導者に面接指導という形で協力することはできると思う。

- 勤務している大学においては、新しい生活様式に則ってリモートの講義と対面の実験・実習を併用しながらやっている。学生を見ていると、やはり自分で自学自習ができるようになっておかないと、今後は対応できない。

進路実現に向けた学力向上については、自分のこととして将来を考え、進路の目標をしっかりと考えさせるような指導が大切で、本人がスイッチを入れなければならない。

私の地域では、中学校のテスト期間に合わせて、「ノーメディアデー」に5日間ほど取り組んでいる。これは生徒だけではなく、皆に考えさせる仕組みとして、教員、保護者、地域にも呼びかけ、夕方の時間帯に実施している。もう少し考えて、自分で学習できるようにしていけないといけない。睡眠時間の確保など生活習慣も含めて、小・中・高で連携して対応していく必要があると考える。

先ほど学校から報告があったように、押さえるべきところは押さえてしっかりと取り組んでいってほしい。学力の向上と進学先や就職先については保護者の関心が高い。今後もこの協議会で継続的に協議していけたらと思う。

(6) 閉会

次回の学校運営協議会についての連絡